

# 健康と安全の両輪から

## 両輪会で情報提供と事例報告

運輸業界の安全と健康を推進する協議会(両輪会、代表・作本貞子NPO法人ヘルスケアネットワークへOCHIS)副理事長)は12日、第27回両輪会を昨年に続いてウェブ開催した。今回のテーマは「ドライバーへのアプローチ、健康と安全の両輪から」で、OCHISの保健師からの情報提供と事業者による事例報告を行った。

両輪会は運輸業界でのドライバーらの健康と運行の安全を図るため、様々なアプローチを行っているが、事業者それぞれが抱える課題は多い。作本代表は「困りごとの共通点は、ドライバーの意識改革や教育」と位置付けて各社へのアドバイスをを行った。

保健師による情報提供では、OCHISが全日本トラック協会の委託を受けて推進する「運輸ヘルスケアナビシステム」の実績や、その結果からの取り組み。また睡眠時無呼吸症候群(SAS)事業の実績や新たな支援策について説明した。

事例紹介では、合通口シ(大阪市)から「定期健康診断結果から有所見者への取り組み」として、有所見者に対して医療機関での受診を促すためプライバシーに配慮しながら産業医の助言を得て受診勧奨を行っていることを説明した。

また梅田運輸倉庫(大阪市)からは「ドライバー向け取扱規則等の『ドライバーズブック』の活用についてをテーマに、会社ルールや通達、改正道路交通法などの情報をノートにしてドライバーに携帯を呼び掛けていることを紹介した。

両事例とも課題を認識しながらも改善し、健康と安全運行への基礎的なアプローチとして両輪会参加者には有効な参考事例となった。